

平成30年7月18日

東京都公民館連絡協議会職員部会 第4回 議事録

日時 7月18日(水) 午後2時から5時15分

場所 小平市中央公民館 学習室1

出席者：小平(武井、寺本)、日野(佐藤、大和田)、国分寺(南波)、国立(松田)、西東京(三城)、福生(松浦)、狛江(内田)、東大和(宮鍋)、昭島(梶芳)、町田(矢嶋)、小金井(小磯)、伊東顧問

1 事務局より

- ・職員部会ニュースコラム担当順番について

6・7月号 国分寺市、国立市 7/21(土) 原稿締切

8・9月号 西東京市、福生市 9/22(土) 原稿締切

- ・東京都公民館研究大会第2回企画委員会の報告

研究大会のメインテーマが「どうなる? どうする? 社会教育 ～連携・協働・参加の成果を発信しよう」に決まった。

～各部会のテーマ(検討中含む)～

委員部会：公民館講座受講後の展開 ～循環型学習をするには～

職員部会：公民館職員としての利用者との関わり方(仮)

福生市：公民館のサークルは地域貢献をしなくてはいけないのか(仮)

または、リーダーの養成(仮)

西東京市：地域づくり事業の実践(仮)～多摩コンファレンス～

～東京都公民館研究大会事務局より～

公民館以外の社会教育施設の関係者も参加するため、各部会のテーマから公民館の冠はできるだけはずしてほしい。

分科会のアンケートが活かされていないため、半年後～1年後にアンケートを実施し、大会の適正な評価をしたい。

2 協議事項に関して

- ・職員部会研修会内容について

チラシ：8月上旬に都公連事務局より各市へ送付する予定。

申込書の枠を3人→5人に増やす。

送付先として都公連加盟市以外にもPRの意味も含め送付を希望する。

アンケート：「所属」(選択式)、「何年目」、「職員部会に望むこと」を項目に追加する。

依頼状：対象はチラシと合わせる。少なくとも公民館職員を一番前に持ってくる。

また、発番は不要ではないか、発信者名を誰にするか要確認。

研修会の役割分担、当日のスケジュールについて協議した(別紙のとおり)。

※各市で配布したいチラシ等があれば、研修会当日に持参すること。

・東京都公民館研究大会課題別集会について  
～事例報告、事例報告者検討～

・小平市

サークル支援や学びの循環につなげるため、平成28年度から地域連携講座を実施。サークルの講師に依頼し、サークルのメンバーにも協力してもらう。28年度は絵手紙とヨガのサークルに協力してもらい、講座を開催。サークルを知ってもらったり、会員の加入につながった。29年度は、かな書道とキルト。メンバーの固定化・高齢化対策への支援になる。

事業企画委員会は、公民館を地域のコミュニティづくりの拠点とするために、地域のリーダーと継続的につながり、地域住民の意向を適切に反映した公民館の講座等を企画する取組み。委員は自治会関係者、地域福祉関係機関、民生委員・児童委員、学校長・副校長、学校支援コーディネーター、公民館利用者等。次年度実施予定の講座等を企画・検討する。任期は2年（再任は妨げない）。年7～10回程度。委員の報酬は無し。

・国分寺市

長期講座から生まれたグループ活動とどういふ風に関わるか。「グループ企画事業」グループの人と講座の企画をし、グループ活動を盛り上げる支援を行っている。

公民館まつりや運動会、芸術祭にて、既存のグループと新しいグループの関係が課題である。既存グループは会員減少で悩んでおり、グループ活動公開事業や公民館だよりなどをお勧めし、関係性を築いている。

各館にサポート委員があり、各館特色ある講座企画を考えたり、地域おこしイベントなどを開催している。

・昭島市

市民文化祭や利用者連絡会の公民館まつり、部屋別懇談会を実施している。新しいものが少ないのが課題。参加者が固定化してしまっている。夏休みにサークルメンバーが子どもたちに教える事業を始めた。今は声をかけやすい人を中心に依頼しているが、若い人にも声をかけていきたい。また、以前まで公民館だよりのサークル紹介の記事がなかったが、紹介をするようになった。

・福生市

サークル化の支援について。「寿(ことぶき)生きがいひろば」という講座を実施中。この講座はサークル化率が高い。職員も講座と一緒に参加することで、仲間意識を持ってもらえるようになった。翌年度、同じ講座に協力団体として関わってもらっている。「夏休み子ども教室」にてサークルを講師に呼び、無報酬で実施している。

・狛江市

公民館での団体の発表の場がまつりしかなかった。利用者の会とタイアップし、「公民館ロビーコンサート」を実施した。月1回開催のイベントが浸透しており、サークルのモチベーションにつながっている。

まつりでの体験型サークルに職員が入り、つながりづくりをしている。

・西東京市

まつりを実行委員会形式で実施。駅前フェスタ×サークル体験フェアを実施予定。

公民館ではなく、谷戸まつり実行委員会主催のまつり。サークルの壁をなくし、物をつくったりしている。

小学校や児童館と協力し、防災講座実施。人形劇フェスタが大好評だった。

・ 国立市

利用者連絡会がサークル同士の交流の場。世代間交流講座にてサークルが講師になり、子どもに教える。緑化ボランティアとして、公民館周りの菜園を手入れしてもらっている。

・ 日野市

高齢者市民企画会議にて、ひきこもり高齢者をひっぱりだそうと取り組んでいるがうまくいかない。

サークル立ち上げ希望者の支援が課題。

市が主催する利用者連絡会がなかったため、三者懇談会（利用者・公運審・職員）を実施していたが、意見交換がうまく進んでいなかった。現在は、講座の形で市民と職員で公民館について考えている。

利用者やサークル同士が交流できる形づくりを検討中。以前に比べ、サークルより居場所を求めているように人のつながり方が変化している。

・ 東大和市

公民館まつり「展示グループ」「発表グループ」に分け、事務手続きは公民館が行っている。

地域課題講座を企画委員方式で実施している。平成29年度の「環境テーマ」は応募が0人。30年度テーマなしは応募が2人。

未来大学では、市民が「公民館がやっていること」を代わりにやる。講師依頼や会場設営等を行う。

・ 町田市

「秋のセンターまつり」は企画運営委員で運営。

「春の利用者交流会」では基調講演を行い、分科会に分かれ、センターの利用の仕方などを話し合う。

「ボランティアバンク」では講師を呼びたいサークルや、自分の力を活かしたい利用者同士をつなげる。

・ 小金井市

利用者の高齢化、若い層の利用が少ないことが課題。公民館まつりでは参加者実行委員会形式で運営しており、課題として高齢化が挙げられる。また、若年層の参加をねらい、保育付講座を増やしたり、HPの工夫を行っている。

～伊東顧問より～

「職員から利用者へ」と「利用者から職員へ」の2パターンの事例報告が理想的である。公民館職員がどのように利用者に働きかけたのか、また利用者はそれを受けて何に気付き、新たな学び、つながりができたのか。職員が働きかけた意味がはっきりする事例報告があると分かりやすい。

子どもの貧困。利用の多い高齢者にスポットをあてて話すかどうか。サークルとして一生懸命活動しており、それが地域とどうつながっているのか話があると分かりやすい。子どもや青年が公民館に来館し、一緒に何かをやっているという取り組みがあると事例を聞いていて元気になれる。

注目度の観点からいうと、震災が発生した時に対応する講座はないか。助け合う仕組みづくりをしているところはないか。

公民館職員としての役割、関わり方が見える事例がいい。

～事例報告担当市～

国分寺市と小平市に決定した。

国分寺市：利用者からの事例報告なら可能かもしれない。

ハワイアンサークル所属。まつり実行委員長。

サポート委員としても活動しており、地域おこし「お囃子を復活させよう」という活動に積極的に取り組んでいる。

小平市：事業企画委員会について、職員側からと委員側からで報告する形で調整を進めていく。

～助言者候補～

伊東顧問より、井口啓太郎さん（国立市職員・文科省派遣）、上田幸雄さん（元日体大教授・元西東京市公運審委員）、木下巨一（のりかず）さん（長野県社会教育関係者）の3人が助言者候補として紹介され、井口啓太郎さんに助言者をお願いすることになった。

### 3 その他（案内）

「実践研究 学芸大ラウンドテーブル2018」

日時：平成30年8月3日（金）13：30～17：00

会場：東京学芸大学

「社会教育実習支援ネットワーク構築の提案」

日時：平成30年7月21日（土）13：30～16：30

会場：立教大学

次回開催日 9月19日（水）午後2時から 職員部会研修会  
場所 小平市中央公民館